

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：34404

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330151

研究課題名(和文) 歴史から見る公正価値会計 会計の根源的な役割を問う

研究課題名(英文) Fair Value Accounting in Historical Perspective

研究代表者

渡辺 泉 (WATANABE, Izumi)

大阪経済大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40066832

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,300,000円、(間接経費) 2,790,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、情報提供機能を第一義的とする現代会計の役割に照らし合わせながら、会計ならびにその損益計算構造を支えてきた複式簿記が如何なる役割を担って歴史の舞台に登場してきたのかを再吟味し、これを通して、会計の本質がどこにあるのかを再検討することであった。さらに、会計の重心を信頼性から有用性に、あるいは検証可能性から目的適合性にシフトさせてきた現代会計が目指す方向性の危うさに歴史というフィルターを通して警鐘を打ち鳴らすことであった。そのため、昨今の資産負債観偏重の公正価値会計が会計の本質に照らし合わせてみたときに、果たして如何なる、そして如何ほどの理論的根拠を持つのかを検討した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to reexamine the relationship between the market value and the discounted present value, which form the basis of fair value measurement, and the original role of double-entry bookkeeping. This reexamination looks at modern accounting from the perspective of measurement to uncover what constitutes truly useful information with respect to the presently overused decision making usefulness approach.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：公正価値 有用性 複式簿記 信頼性 IFRS 財務会計 会計観 会計史

## 1. 研究開始当初の背景

FASB によって展開された資産負債観にもとづく会計観は、今まさに現代会計を席卷し、会計が 800 年もの長きにわたって継承してきた発生主義を機軸にした取得原価会計にコペルニクス的転換を突きつけたといっても過言ではないと考えられる。

現代会計の基本的な役割は、情報提供機能にあるといわれている。しかしながら、近年、意思決定に有用な情報という側面が過度に強調されすぎたため、財務会計は、その本来の計算構造の枠組みを超えて、事実に基づく結果の提示から乖離した、予測あるいは期待という禁断の実を口にしてしまったように思えてならない。

なぜなら、投資家とりわけ投資ファンドに代表される投機家にとっての有用な情報は、過去の取引事実にもとづく信頼される情報ではなく、たとえそれが実現されなくても、期待に満ちたバラ色の数字に満たされた世界の方がはるかに魅力的になるからである。その結果、単なる過去の事実情報よりも市場で推定できる将来の予測情報が意思決定により有用であるという錯覚を生み出してくる。

FASB は、1997 年に包括利益の開示を義務付ける会計基準 SFAS 第 130 号を公表したが、「SFAS130 の構成要素である『その他の包括利益』は、単に包括利益にノイズを加えているに過ぎない」という実証研究による指摘も同時になされているのは興味深い。本来、過去会計である財務会計に将来の予測を見込む管理会計的な現象が生じた結果、財務会計の事実にもとづく検証可能性に裏打ちされた信頼性に大きな歪が出てきているといえよう。

会計の基本構造を支えてきた複式簿記が 13 世紀の初めから今日に至るまでの 800 年もの長きにわたり、脈々と継承されてきたのは、取引事実にもとづく性格で誰によっても検証可能な信頼できる利益計算システムであったからである。有用性や目的適合性という名のもとに、会計を誕生せしめた収益費用アプローチは、会計的利益計算の王道から片隅に追いやられてしまっている。昨今の資産負債アプローチ偏重の会計観やそれを支える公正価値会計は、会計の本質に照らし合わせて見たとき、果たして如何なる、そして如何ほどの理論的根拠をもちうるのだろうか。このような問題意識のもとで本課題研究のプロジェクトをスタートさせた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、情報提供機能を第一義的とする現代会計の役割に照らし合わせながら、会計ならびにその損益計算構造を支えてきた複式簿記が如何なる役割を担って歴史の舞台上に登場してきたのかを再吟味し、これ

を通して、会計の本質がどこにあるのかを再検討することにある。さらに、会計の重心を信頼性から有用性に、あるいは検証可能性から目的適合性にシフトさせてきた現代会計が目指す方向性の危うさに歴史というフィルターを通して警鐘を打ち鳴らすことであつた。そのため、昨今の資産負債観偏重の公正価値会計が会計の本質に照らし合わせてみたときに、果たして如何なる、そして如何ほどの理論的根拠を持つのかについて、検討してきた。

さらに、2011 年の夏には、突然に生じた IFRS の適用範囲の縮小議論や延長議論に惑わされることなく、会計の本来の役割が何であるのかを通して、ありうる会計の測定手段を明らかにすることにある。意思決定有用性アプローチにその軸足を置く金融資本中心の世界的な流れの中で、今一度、モノづくりを基軸に据える日本経済を再生させるために、包括利益情報に対する当期純利益情報の存在意義を単に信頼性の観点からだけでなく有用性の側面からも明らかにしていくことも目的としてあげられた。

## 3. 研究の方法

本研究では、現代会計と会計史研究を専攻するものがあつまり、当該研究テーマについて各担当者ごとに個別テーマを設定し、研究を進めてきた。適宜、研究会等を通じて各担当者の研究成果を報告し、検討を重ねてきた。具体的には、まず初めに、時価による評価替えの実務が歴史的にいつ頃登場し、どのように変遷してきたのかを明らかにし、次いで FASB や IASB が推し進めようとしている公正価値会計、とりわけ割引現在価値会計が抱える問題点を歴史というフィルターを通して検証し、会計の本来の役割を明らかにしていった。

加えて、意思決定有用性アプローチにその軸足を置く金融資本中心の世界的な流れの中で、今一度、モノづくりを機軸に据える日本経済を再生させるために、包括利益情報に対する当期純利益情報の存在意義を単に信頼性の観点からだけでなく有用性の観点からも明らかにしていくことを試みた。

## 4. 研究成果

2011 年 9 月に久留米大学で開催された日本会計研究学会の全国大会において、「歴史から見る公正価値会計」と題する研究成果を科学研究費申請メンバーで報告した。この成果報告までに、斎藤静樹教授、安藤英義教授、平松一夫教授の 3 名の講師に講演を依頼し、ディスカッションを通して、メンバー各位の研究をより一層掘り下げ、中間報告として各テーマに沿ってまとめ、論考として公表した。

2012 年 8 月末には、一橋大学で開催された日本会計研究学会での最終報告を行い、当メ

ンバーを代表して、分担者の宮宇地俊岳が台湾会計学会で報告を行った。

また、研究成果として、研究代表者と研究分担者において『歴史から見る公正価値会計 - 会計の根源的な役割を問う - 』(2013年3月)を刊行して、成果を公表している。

最終年度においては、これまでの研究成果を海外に発信することが主目的となっていたため、昨年度に出版した『歴史から見る公正価値会計 - 会計の根源的な役割を問う - 』の洋書版書籍『Fair Value Accounting in Historical Perspective』を研究代表者、分担者における共著として刊行した。

当初の計画通り、刊行した上記の洋書を海外(欧米、アジアなど)の会計学関係の研究者達に献本を行うという作業を実施した。この海外の研究者達には、会計史が専門の大学教員から公正価値などのカレントトピックスなどを扱う学者たちが含まれている。また、彼らの中には、国際学会などのエディターや、その分野では国際的なオーソリティでもある著明な学者も含まれる。本研究のテーマでも見られたように現代の問題に対する歴史的アプローチを採用した研究成果の発信を前提としているため、会計学の分野の中でも現代会計から会計史を専門とする研究者に献本を行っている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 21 件)

岡嶋慶「アメリカにおける監査基準の発展(下) そのステートメント化プロセス」『経営経理研究(拓殖大学)』第100号, 247-298頁, 査読有, 2014年3月

宮宇地俊岳 "Does Fair Value Accounting Improve Relevance of Accounting Information?", 『Otemon Economic Studies』, Vol. 46, pp.37-53, 査読無, 2014年2月

高須教夫「IFRS フレームワーク討議資料の論点/認識および認識の中止」『企業会計』第66巻第1号, 137-142頁, 査読無, 2014年1月

岡嶋慶「アメリカにおける監査基準の発展(上) そのステートメント化プロセス」『経営経理研究(拓殖大学)』第99号, 79-124頁, 査読有, 2013年12月

佐々木重人「19世紀イギリスの株式会社実務 資本区分の実態とその役割」(研究ノート)『専修商学論集』第97号, 87頁-95頁, 査読無, 2013年7月25日

渡邊泉「18世紀イギリスで登場する単式簿記再考」『会計』第183巻第6号, 1-15頁, 査読無, 2013年6月

渡邊泉「単式簿記と複式簿記の関係 複式簿記は単式簿記から進化したのか」, 『会計』, 第182巻第5号, 121-135頁, 査読無,

2012年11月

渡邊泉「公正価値会計の非整合性への歴史からの検証」『産業経理』, 第72巻第3号, 20-33頁, 査読無, 2012年10月

松本敏史「会計の基本機能と公正価値会計」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会最終報告. 1-21頁, 査読無, 2012年

宮武記章「公正価値会計の登場とその時代的背景」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会最終報告. 23-44頁, 査読無, 2012年

宮宇地俊岳「公正価値会計の現状と課題」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会最終報告. 45-62頁, 査読無, 2012年

高須教夫「公正価値会計をめぐる相剋」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会最終報告. 63-79頁, 査読無, 2012年

杉田武志「17世紀における時価評価」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 81-102頁, 査読無, 2012年

渡邊泉「18世紀を中心にイギリス簿記書に見る時価評価の登場」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 103-121頁, 査読無, 2012年

佐々木重人「19世紀イギリスの企業会計実務にみられる時価評価の実態」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 123-145頁, 査読無, 2012年

岡嶋慶「19世紀末からのプロフェッショナル監査における資産評価への対応」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 147-169頁, 査読無, 2012年

小野武美「歴史に見る時価会計離脱の諸相」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 193-208頁, 査読無, 2012年

渡邊泉「提言：行き過ぎた有用性アプローチへの歴史からの警鐘」『歴史から見る公正価値会計-会計の根源的な役割を問う』日本会計研究学会第71回大会課題研究委員会中間報告. 209-233頁, 査読無, 2012年

渡邊泉「行き過ぎた有用性アプローチへの歴史からの警鐘」Working Paper Series(大阪経済大学) No.2012-1, 33頁, 査読無,

2012年4月

佐々木重人「19世紀前半のイギリス鉄道会計における時価評価の実態」『専修商学論集』第94号, 65-77頁, 査読無, 2012年1月

21 渡邊泉「歴史から見る時価評価の位置づけ - 取引価格会計としての取得原価と市場価値 - 」『會計』, 第180巻第5号, 1-16頁, 査読無, 2011年11月

〔学会発表〕(計4件)

渡邊泉「単式簿記の登場とその特質 - 18・19世紀イギリスにおける新たな潮流 - 」日本会計史学会第32回大会(於:兵庫県立大学), 2013年10月26日

宮宇地俊岳「Does Fair Value Accounting Improve Relevance of Accounting Information?」台湾会計学会(於:台湾大学), 2012年12月3日

渡邊泉・高須教夫「歴史から見る公正価値会計 - 会計の根源的役割を問う(最終報告)」日本会計研究学会第71回全国大会(於:一橋大学), 2012年8月30日

渡邊泉・松本敏史「歴史から見る公正価値会計 - 会計の根源的役割を問う(中間報告)」日本会計研究学会第70回全国大会(於:久留米大学), 2011年9月17日

〔図書〕(計4件)

Izumi Watanabe(ed.)・Toshifumi Matsumoto・Noriaki Miyatake・Toshitake Miyauchi・Norio Takasu・Takeshi Sugita・Shigeto Sasaki・Kei Okajima・Takemi Ono, *Fair Value Accounting in Historical Perspective*, Moriyama Shoten, pp. 270, Feb. 2014,

高須教夫「第3章 会計観の転換と複式簿記」, 藤井秀樹編著『国際財務報告の基礎概念』中央経済社, 2014年1月, 45-64頁  
小野武美「第9章 資金調達・コーポレートガバナンスと会計情報」伊藤 邦雄, 桜井 久勝(編集)『体系現代会計学第3巻 会計情報の有用性』, 中央経済社, 317-339頁, 2013年9月

渡邊泉(編著), 松本敏史, 宮武記章, 宮宇地俊岳, 高須教夫, 杉田武志, 佐々木重人, 岡嶋慶, 小野武美, 『歴史から見る公正価値会計 - 会計の根源的役割を問う』森山書店, 264頁, 2013年3月,

研究者番号: 40098364

松本敏史 (MATSUMOTO, Toshifumi)  
早稲田大学・商学部・教授  
研究者番号: 90140095

宮宇地俊岳 (MIYAUCHI, Toshitake)  
追手門学院大学・経営学部・講師  
研究者番号: 90609158  
(2012年度より研究分担者)

高須教夫 (TAKASU, Norio)  
兵庫県立大学・会計研究科・教授  
研究者番号: 70148732

佐々木重人 (SASAKI, Shigeto)  
専修大学・商学部・教授  
研究者番号: 40162367

岡嶋慶 (OKAJIMA, Kei)  
拓殖大学・商学部・准教授  
研究者番号: 30308697

小野武美 (ONO, Takemi)  
東京経済大学・経営学部・教授  
研究者番号: 10185639

宮武記章 (MIYATAKE, Noriaki)  
大阪経済大学・情報社会学部・准教授  
研究者番号: 60511227

杉田武志 (SUGITA, Takeshi)  
大阪経済大学・情報社会学部・准教授  
研究者番号: 80509117

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

渡邊泉 (WATANABE, Izumi)  
大阪経済大学・その他部局等・名誉教授  
研究者番号: 40066832

### (2) 研究分担者

平松一夫 (HIRAMATSU, Kazuo)  
関西学院大学・商学部・教授